

今月の経済動向（平成29年8月）

● 月例経済報告

<p>基調判断</p>	<p>(8月) 景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(7月) 景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	
<p>個人消費</p>	<p>(8月) 緩やかに持ち直している。</p> <p>(7月) 緩やかに持ち直している。</p>	<p style="text-align: center;">消費総合指数と実質総雇用者所得</p>
<p>設備投資</p>	<p>(8月) 持ち直している。</p> <p>(7月) 持ち直している。</p>	<p style="text-align: center;">製造業・非製造業の設備投資（実質）</p>
<p>住宅建設</p>	<p>(8月) 横ばいとなっている。</p> <p>※「このところ」を削除</p> <p>(7月) このところ横ばいとなっている。</p>	<p style="text-align: center;">住宅着工戸数（季節調整値）</p>
<p>雇用情勢</p>	<p>(8月) 改善している。</p> <p>(7月) 改善している。</p>	<p style="text-align: center;">雇用者数、就業者数の推移</p>

月例経済報告：内閣府

生産	(8月) 持ち直している。	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2010年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年8月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左軸は生産・出荷・在庫（目盛右）で70から120まで、右軸は在庫率（目盛右）で90から160まで表示されています。生産（実線）は2009年に急激に落ち込み、その後回復傾向にあります。出荷（点線）も同様の動きを示しています。在庫（破線）は比較的安定しています。在庫率（点線）は2009年に急激に上昇し、その後回復傾向にあります。2017年8月のデータは予測調査によるものです。</p>																								
	(7月) 持ち直している。																									
輸出	(8月) 持ち直している。	<p>地域別輸出入数量指数 (2010年=100) ①輸出</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年7月までの地域別輸出入数量指数を示しています。左軸は数量指数で60から150まで表示されています。全体（黒線）は2009年に急激に落ち込み、その後回復傾向にあります。アメリカ（赤線）は20.2%、アジア（緑線）は53.0%、EU（青線）は11.4%を占めています。右側の表は7月と3ヶ月移動平均（3MA）の増減率を示しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>アメリカ</td> <td>7月</td> <td>+4.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+1.9%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>7月</td> <td>▲1.3%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲0.7%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>7月</td> <td>▲0.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+0.7%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>7月</td> <td>+0.7%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲0.2%</td> </tr> </table>	アメリカ	7月	+4.2%		3MA	+1.9%	EU	7月	▲1.3%		3MA	▲0.7%	全体	7月	▲0.4%		3MA	+0.7%	アジア	7月	+0.7%		3MA	▲0.2%
	アメリカ		7月	+4.2%																						
	3MA	+1.9%																								
EU	7月	▲1.3%																								
	3MA	▲0.7%																								
全体	7月	▲0.4%																								
	3MA	+0.7%																								
アジア	7月	+0.7%																								
	3MA	▲0.2%																								
国内企業物価	(8月) このところ上昇テンポが鈍化している。	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年7月までの企業物価の推移を示しています。左軸は物価指数で94から109まで、右軸は物価指数で70から130まで表示されています。輸入物価（目盛右、破線）は2008年に急激に上昇し、その後回復傾向にあります。輸出物価（目盛右、点線）も同様の動きを示しています。国内企業物価（実線）は2009年に急激に落ち込み、その後回復傾向にあります。</p>																								
	(7月) このところ上昇テンポが鈍化している。																									
消費者物価	(8月) 横ばいとなっている。	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2010年1月から2017年4月までの消費者物価の推移を示しています。左軸は物価指数で95から102まで表示されています。総合（実線）は2013年に急激に上昇し、その後回復傾向にあります。生鮮食品を除く総合（点線）も同様の動きを示しています。生鮮食品及びエネルギーを除く総合（破線）は2013年に急激に上昇し、その後回復傾向にあります。</p>																								
	(7月) 横ばいとなっている。																									
海外経済	(8月) 世界の景気は、緩やかに回復している。																									
	(7月) 世界の景気は、緩やかに回復している。																									

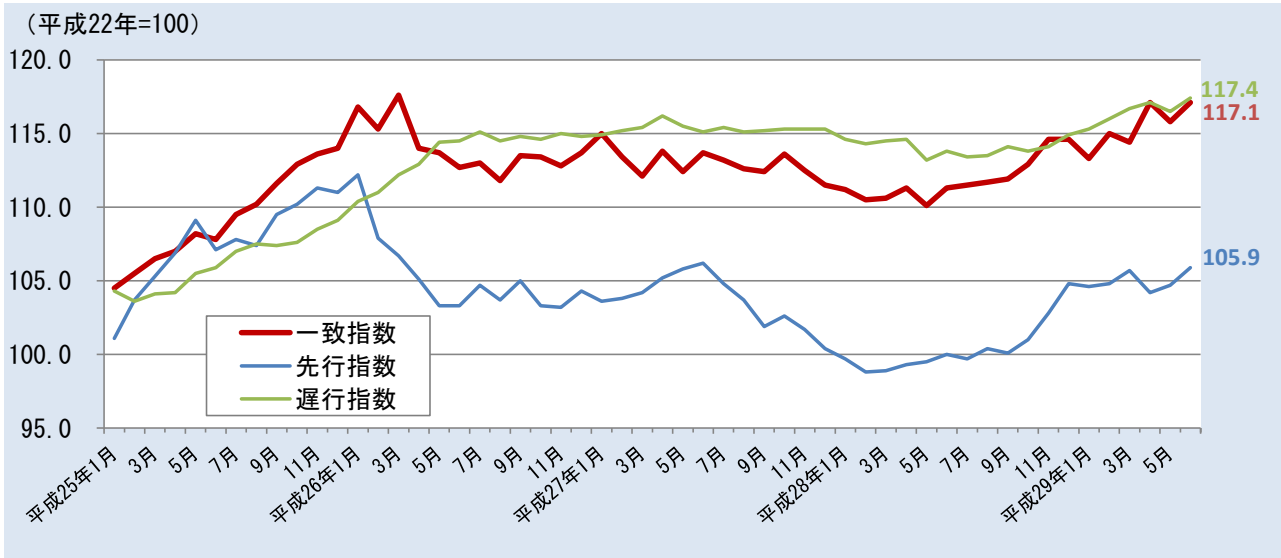
[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成29年6月・改訂値）

平成29年6月のCI一致指数（速報）は前月より1.3ポイント高い117.1ポイントとなった。
 CI先行指数は前月より1.2ポイント高い105.9ポイント、遅行指数は前月より0.9ポイント高い117.4ポイントとなった。
 景気の基調判断（CI一致指数）は、「改善を示している」を据え置いた。

※遅行指数は算出に用いるデータが一部遡及改訂されたため、平成29年4月以降の値が遡及改訂された。
 このため、前月との比較は改訂後の数値で比較しており、前月発表された数値との比較ではないことに注意。

・ CIの推移



[景気動向指数：内閣府](#)